

令和 5 年度
事務事業評価シート
中央公民館
(図 書 館)
歴史民俗資料館

総合評価ランク

A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
D	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要

野辺地町教育委員会

目 次

1 一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	
（ 1 ） みんなの教室（中央公民館）	67
（ 2 ） 野辺地町文化祭（中央公民館）	68
（ 3 ） 二十歳を祝う会（旧：成人式）（中央公民館）	69
（ 4 ） 各世代に対応した図書館事業の実施（図書館）	70
（ 5 ） 各種広報活動の充実（図書館）	71
2 次世代を担う青少年の育成	
（ 1 ） 文化少年団活動（中央公民館）	72
3 地域を支える人材の育成	
（ 1 ） 図書館サークル・おはなしボランティアの育成（図書館）	73
4 学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上	
（ 1 ） 親子ふれあい読書「家読」の奨励（図書館）	74
（ 2 ） 学校等と連携協力した読書活動の推進（図書館）	75
5 社会教育推進のための基盤整備	
（ 1 ） 中央公民館施設の整備（中央公民館）	76
（ 2 ） 図書館施設の整備（図書館）	77
6 文化財の保護・保存	
（ 1 ） 県史跡「藩境塚」「野辺地戦争死者の墓所」ほか町内史跡管理（歴史民俗資料館）	78
（ 2 ） 旧野村家住宅離れ（行在所）の公開と維持管理（歴史民俗資料館）	79
（ 3 ） 文化財調査事業（歴史民俗資料館）	80
（ 4 ） 埋蔵文化財発掘調査事業（新規）（歴史民俗資料館）	81
7 文化財の整備と活用	
（ 1 ） 文化財活用事業の実施（歴史民俗資料館）	82
8 郷土の歴史・文化・芸術の保存及び継承	
（ 1 ） 民俗芸能の保存と継承（歴史民俗資料館）	83
9 資料館施設の整備充実	
（ 1 ） 特別展・各種講習会等の普及事業の開催（歴史民俗資料館）	84
（ 2 ） 資料のデータベース作成・整備事業（歴史民俗資料館）	85
（ 3 ） 館内環境整備事業（歴史民俗資料館）	86

事務事業評価シート

施 策 名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	中央公民館
事務事業名	みんなの教室	担当者名	野坂 洸太

事業の目的・内容	町民の学習意欲に応えるため、魅力ある教室を開設し町民のふれあいと趣味の高揚を図るとともに生涯学習の一環として実施する。			
事業の対象	一般			
事業費	年度	令和 4 年度決算	令和 5 年度決算	令和 6 年度予算
	金額	1,102 千円	529 千円	532 千円

事業の実績・成果等 (数値)	受講生数 240人(実人数) 教室 29 講座			
	講師謝金	240,000円		
	文化祭協力金	50,000円		
	事務費(振込手数料含む)	10,780円		
	備品購入費	47,957円		
	燃料費(暖房費)	80,000円		
	予備費	100,000円		
	事業経費合計	528,737円		

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	成果：令和5年度は、事業運営の見直しを行い、みんなの教室の財政状況の立て直しを図ることができた。令和6年度から新規約で事業を行えるよう段階的な整備もできた。 課題：高齢化により参加者が固定化傾向にあり、新たな参加者の獲得が課題。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	四戸委員	前田委員	橋本委員	村木委員	R4参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見(参考:令和4年度の評価意見)

・町民にとって意義ある事業なので、ぜひ継続してほしい。 ・新規参加者がなかなか増えないという問題があるが、学習意欲がある町民へ本事業を推進できていると思う。 ・考察課題において新体制で事業を行えるように段階的に準備ができているとのことなので、今後の活動に期待している。 ・魅力ある教室のPRをしてほしい。
--

評価委員意見(令和5年度)

・講師確保は教育委員会だけでなく、役場内の人脈等を活用して対応してほしい。 ・財政状況の立て直しをして、運営を工夫していると思う。 ・新しい参加者を増やす工夫も必要だと思う。 ・町民に周知して、新しい参加者が参加できるようにしてほしい。 ・PRする上でさらにアイデアが必要。 ・活動しているのを見えるような形で町民が知れば、参加者が増加するのではないか。 ・事業の見直しを行い、立て直しができたことは大変評価できる。あとはどのように魅力的な教室にしていくのかを考え実行してほしい。 ・参加者数もある程度確保されていると考える。新たな教室の開設に向けた努力に期待したい。
--

事務事業評価シート

施 策 名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	中央公民館
事務事業名	野辺地町文化祭	担当者名	野坂 洸太

事業の目的・内容	文化祭実行委員会を組織して開催し、芸能部門と展示部門で、日頃の練習の成果や学習作品など発表。			
事業の対象	文化振興協議会・みんなの教室・一般			
事業費	年度	令和 4 年度決算	令和 5 年度決算	令和 6 年度予算
	金額	63 千円	88 千円	194 千円

事業の実績・成果等 (数値)	令和5年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響もなく、通常通りに近い形で実施することができた。 また、キッチンカーを呼ぶなど新たな取り組みを行うことができ、参加者からも高評価を得たので、継続したい。ただし、文化祭の展示期間が3日目へと長くなるに連れ、集客数が減ることから、改善の余地がある。			
-------------------	---	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	令和5年度の文化祭は、コロナ明け2回目の実施となり、町民の期待も大きくなった。そのことから要望や改善点を発見する年となった。 (プログラムの改善や周知チラシ、ポスター制作の点)		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	四戸委員	前田委員	橋本委員	村木委員	R4参考
		B	A	B	B	B	B

評価委員意見(参考:令和4年度の評価意見)

- ・コロナに気をつけながら参加者が増えるように、安心感のある工夫をしてほしい。
- ・日頃から文化活動を行っている方の発表の場がコロナ対応を緩和し実施されたので良かった。活動を休止していた団体も今後参加されると嬉しい。
- ・昨年の文化祭時に担当者が不在だったため大変だったと聞いている。今後はそのようなことがないようにしてほしい。
- ・コロナ禍であっても実施することができて良かった。
- ・コロナでの活動自粛中に活動を断念する団体もあったとのことで残念である。

評価委員意見(令和5年度)

- ・キッチンカー出店等だけでなく、駐車場を一部ステージとした発表を検討してはどうか。
- ・成果や作品を発表できる機会があるのは励みになると思う。また、新しい取組もあり、高評価を得たとのことで参加者が増えることを期待する。
- ・新しい参加者・団体が加わることによって、集客の増加が見込まれると思う。
- ・周知を工夫して、来たくなる・見たくなるようなチャンスにしてほしい。
- ・新しい取組を入れて変化をつけ、人を集客できたのは大変意義があると思う。日頃の練習の成果を発揮できる場として継続してほしい。
- ・従前の開催内容から、屋外でのキッチンカー等の取組も始まり、今後も充実させてもらいたい。

事務事業評価シート

施 策 名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	中央公民館
事務事業名	二十歳を祝う会（旧：成人式）	担当者名	野坂 洸太

事業の目的・内容	令和5年度中に二十歳を迎える方の門出を祝うため、二十歳を祝う会（旧：成人式）を開催する。			
事業の対象	平成15年4月2日～平成16年4月1日生まれの二十歳を迎える方			
事業費	年 度	令和 4 年度決算	令和 5 年度決算	令和 6 年度予算
	金 額	518 千円	367 千円	493 千円

事業の実績・成果等（数値）	令和6年1月7日 令和6年二十歳を祝う会の実施 新成人60名			
	記念品	200,000円	くららグッズ一式	
	消耗品費	壇上花15,000円		
	印刷製本費	143,440円	（プログラム91,520円、記念写真51,920円）	
	郵便料	8,400円		
	合計	366,840円		

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	令和5年は、コロナ感染症対策ということで、家族の入場を1名までと制限していたが、令和6年の二十歳を祝う会は、制限なく通常通りとした。問題なく無事に実施することができた。今後についても世の中の状況等により柔軟に対応したい。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	四戸委員	前田委員	橋本委員	村木委員	R4参考
		B	A	B	A	B	B

評価委員意見（参考：令和4年度の評価意見）

- ・公民館での継続を希望する。
- ・コロナ対策を講じながら実施したので、参加者も安心して会を楽しめたと思う。これから少子化が進み対象者も確実に減っていくので、寂しい祝う会にならないように工夫も必要になってくると思う。
- ・コロナ禍で実施ができたことは嬉しく思う。準備の中で工夫もしながら当日を迎えられて良かった。
- ・未来ある若者たちの晴れの日なので、今後も継続してほしい。
- ・子どもたちにとって大切な節目を町でお祝いしてくれることはとても嬉しいことであり、町民であることを認識する日であると思うので、更に心に残るものになるような工夫をして続けていただきたい。

評価委員意見（令和5年度）

- ・申込締切の期日が早いのではないかな。
- ・夏の開催を視野に入れて検討してはどうか。
- ・通常通り実施できたということで、家族も含め参加者は嬉しかったと思う。一生に一度なので、これからは思い出に残るような祝う会をお願いしたい。
- ・継続を希望する。
- ・記念品として渡しているくららグッズをもう少し宣伝してほしい。
- ・対象者は減少傾向と思うが、晴れの舞台なので継続してもらいたい。

事務事業評価シート

施 策 名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	図書館
事務事業名	各世代に対応した図書館事業の実施	担当者名	吉田 真希子

事業の目的・内容	生涯学習施設の拠点として、0歳から高齢者までを対象とした各種事業を実施し、趣味や学習の場を提供するとともに、読書の推進と文化の振興を目的に実施する。			
事業の対象	町民（乳幼児、小学生、中学生、一般）			
事業費	年度	令和 4 年度決算	令和 5 年度決算	令和 6 年度予算
	金額	58 千円	73 千円	98 千円

事業の実績・成果等（数値）	○集会行事 【子ども】ヨチヨチおはなし会（8回・親子13組27名）、おはなし工房（12回・44名）、第14回のへじふるさとカルタ大会（1回・18名）、ドキドキおはなし会（2回・31名）、第63回読書マラソン（1回・58名） 【全世代】令和5年度読書講演会（1回・34名）、読書deスタンプラリー（2回・84名）、古雑誌等無料譲渡会（15日間・延べ66名、274点） ○展示 ・本の展示（月1回テーマ展示・14回） ・ミニギャラリー／油絵展（7・8月）、名誉町民「江口氏」関係資料展（9・10月）、季節の壁面構成（ロビーにて随時） ○出前行事／出前おはなし会（児童館、幼稚園（2回・66名）			
---------------	--	--	--	--

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	【成果・考察】 ・子どもを対象とした行事を中心に行ってきたが、令和5年度は一般を対象に県内で執筆している作家を招き読書講演会を行った。取材や本が完成するまでの編集者とのエピソードが興味深く、参加者が著作を手取るきっかけ作りができた。 【課題】 ・行事への参加者が固定化してきている。新規の参加者がなかなか増えない状況。 ・人口減少やライフスタイルの変化など、利用者数が減少傾向にある。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	四戸委員	前田委員	橋本委員	村木委員	R4参考
		B	B	C	B	B	B

評価委員意見（参考：令和4年度の評価意見）

・工夫された取組なので、参加者が増えるようにもっとPRをしてほしい。 ・本を手にとっての読書文化は絶対に必要だと思う。幼児からそのような所に関心を持っていけるように進めている本事業はとても大切だと思う。 ・各世代への図書に関するPRを今後も継続してほしい。 ・一冊の本との出会いを通じて人生が変わるかもしれないので、いろいろなアイデアを出してほしい。 ・子どもの利用が全体的に減っているとのことで、本を一番必要とする年代であると思うので、そこに焦点を当てた活動を更に期待する。
--

評価委員意見（令和5年度）

・一般向け事業の継続・充実をお願いしたい。 ・令和5年度は一般への読書講演会も行っており、工夫されていると思う。こども向けを含め十分必要な事業だと思うので、利用者や参加者が増える工夫を期待する。 ・各世代にしっかり対応した事業をしてほしい。 ・周知をしっかりしてほしい。 ・アイデアを出し、本の大切さを町民へ発信してほしい。 ・新規参加者をどのようにしたら増やせるのか考え、すぐにでも実行してほしい。

事務事業評価シート

施 策 名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	図書館
事務事業名	各種広報活動の充実	担当者名	吉田 真希子

事業の目的・内容	各世代に対応した細やかな広報活動を行い、図書館事業や読書活動を推進する。			
事業の対象	町民（乳幼児の保護者、小学生、中学生、一般）			
事業費	年度	令和 4 年度決算	令和 5 年度決算	令和 6 年度予算
	金額	70 千円	603 千円	603 千円

事業の実績・成果等（数値）	○世代別図書館だよりの発行。 ・乳幼児の保護者対象：図書館だより「ほんわか」 2回・各230部 ・小学生対象：図書館だより「わくわく」 4回・各450部 ・中学生対象：図書館通信「ティーンズ」 1回・260部 ・一般対象：図書館だより（町内回覧） 1回・470部 ○図書館ホームページ ・新着図書一覧、蔵書検索、休館日、お知らせ、利用案内、ブックリストなど掲載。 ○その他 広報紙への掲載。
---------------	---

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
☐ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☒ 達成できてない	
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	【成果・考察】 ・図書館HPで読書講演会に合わせ講師の著作をブックリストに掲載。在架状況が把握しやすかった。 ・図書館のHPでは、資料検索後に資料の在架状況や月間貸出ランキングが表示可能。 【課題】 ・図書館だよりで使用するイラストの著作権。 ・世代毎に発行している図書館だよりの種類や時期等。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	C	木村委員	四戸委員	前田委員	橋本委員	村木委員	R4参考
		C	B	C	B	C	C

評価委員意見（参考：令和4年度の評価意見）

・もっとICTを活用してほしい。 ・広報の内容が読書文化への入り口となるような、読書人口を増やせるような広報活動になることを期待する。 ・人手が足りないのか時間がなく忙しいのか分からないが、積極的に進めてほしい。 ・頑張ろうという姿勢は伺えるが、毎年同じことを言い訳になかなか進んでいないように見える。

評価委員意見（令和5年度）

・ICTを導入し、図書館と役場、各学校、公共施設をつないで、どこでも検索できるように検討してほしい。 ・図書館だよりや広報のへじへの掲載内容、イベントやボランティアサークルの活動の報告等を図書館HPに掲載したらどうか。 ・細やかな広報活動が不足しているように思う。 ・すばらしい図書システムを導入しているのだから、それをうまく利用してほしい。 ・児童生徒が読書に親しむきっかけとして、さらに充実させるべきと思う。

事務事業評価シート

施 策 名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	中央公民館
事務事業名	文化少年団活動	担当者名	野坂 洸太

事業の目的・内容	学校教育活動以外において、青少年に文化活動を図り、青少年の健全育成を図る。			
事業の対象	小学生及び中学生			
事業費	年度	令和 4 年度決算	令和 5 年度決算	令和 6 年度予算
	金額	0 千円	0 千円	54 千円

事業の実績・成果等 (数値)	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症緩和となったが、講師の希望により自粛し中止 令和5年度については、各教室の講師の都合により中止。			
-------------------	--	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☒ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☐ おおむねできている	☒ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☒ 達成できてない
自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い	
評価説明及び考察、課題	講師の希望により、令和5年度文化少年団は中止とした。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☒ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	C	木村委員	四戸委員	前田委員	橋本委員	村木委員	R4参考
		C	C	C	C	C	C

評価委員意見(参考:令和4年度の評価意見)

・改めて事業の在り方を検討してほしい。 ・講師の確保ができておらず実施できないように見受けられるので残念。数人であっても活動したい子どもがいるのであれば継続してほしい。 ・新しいアイデアやチャレンジ、工夫が必要だと思う。 ・講師の高齢化により活動が中止となったということであるが、新しい人材を確保する努力をしてこの活動を始めてもらいたい。たとえ小さな活動でもそこに居場所を見つける子どももいると思う。

評価委員意見(令和5年度)

・別事業とタイアップしてはどうか。 ・こどもたちが興味を持てるような内容の見直しや、新しい講師の確保などをして事業の継続を望む。 ・事業の在り方を工夫してほしい。 ・新しいアイデアがほしい。 ・しっかり考えて今後の方向性を決めてほしい。 ・これからの活動に大いに期待する。 ・事業の再検討を早急に実施すべきと思う。

事務事業評価シート

施 策 名	地域を支える人材の育成	担当課名	図書館
事務事業名	図書館サークル・おはなしボランティアの育成	担当者名	吉田 真希子

事業の目的・内容	読書の楽しさや素晴らしさを伝えるおはなしボランティアやサークルを育成し、図書館との協働による読書の推進を図る。			
事業の対象	町民			
事業費	年度	令和 4 年度決算	令和 5 年度決算	令和 6 年度予算
	金額	20 千円	10 千円	10 千円

事業の実績・成果等 (数値)	○朗読の会「秋桜」（H7.5.18発足、会員数8名） 活動内容：定例会（月1回）、朗読のつどい（年2回）等14回、延べ人数：89名 ○おはなしサークル「虹色の会」（H8.6.27発足、会員数10名） 活動内容：定例会（月1回）、出前おはなし会（2回）、図書館行事「ドキドキおはなし会（年2回）」への協力等16回、延べ人数：91名			
-------------------	--	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	【成果・考察】 ・園や児童館からの依頼により、出前おはなし会を開催している。子どもが喜んでくれ、実演した会員の満足度も高い。 ・コロナ禍以降、無観客で「朗読のつどい」を実施しているが、会員の意欲や達成感、満足感が高い。 【課題】 ・会員の年齢が高くなってきている。一緒に活動する若い世代の獲得が求められる。 ・平日に活動できる会員が少ない。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	四戸委員	前田委員	橋本委員	村木委員	R4参考
		B	B	C	B	B	B

評価委員意見(参考:令和4年度の評価意見)

・学校との更なるタイアップも検討してほしい。 ・本事業は子どもたちに読み聞かせるだけでなく、読み手になりたいと関心を持つ子どももいると思う。そのようなことが子どもたちの将来の仕事に繋がることもある。 ・育成のためのプログラムをぜひ考えて実施してほしい。 ・発表や活動の場も考えてPRにも繋げてほしい。 ・おはなしサークルやボランティアの活動は子どもたちに大変好評とのことなので、長年活動をされている皆様もとても誇らしいと思う。これからも息の長い活動をお願いしたい。

評価委員意見(令和5年度)

・各園・小学校にそれぞれの団体を紹介するような広報誌やパンフレットのようなものを配布してはどうか。 ・会員の満足度も高いとのこと、これからも継続をお願いしたい。 ・活動内容の紹介の機会もあればいいと思う。 ・学校との関係がしっかりつながるようにして、本に興味を持てて子どもたちを増やしてほしい。 ・周知も必要なので、発表の場があればチラシ等で学校にも配布してほしい。 ・毎年同じ課題を繰り返している、本腰をいれて頑張してほしい。もう少し積極的に様々な場面で活動してみてもどうか。 ・保育園、小学校などとの幅広い連携が必要。ボランティアの確保も検討を。
--

事務事業評価シート

施 策 名	学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上	担当課名	図書館
事務事業名	親子ふれあい読書「家読」の奨励	担当者名	吉田 真希子

事業の目的 ・内容	・肉声による親子ふれあい読書を推進するため、ブックスタート事業（7ヶ月児）とブックスタートプラス（1歳6ヶ月児）を実施。ブックスタートでは、絵本の読み聞かせ、スタートバック（絵本、利用案内、家読CD等）を贈呈し、いつでも本を読んであげられるよう読書環境づくりに努めている。 ・健康づくり課への妊娠届出時に県教育委員会発行「絵本でゆたかな親子の時間」（冊子）を配布し、赤ちゃんが誕生する前からの保護者の読書啓発に努める。 ・ヨチヨチおはなし会の開催（再掲）（3歳未満児対象）			
事業の対象	乳幼児とその保護者			
事業費	年度	令和 4 年度決算	令和 5 年度決算	令和 6 年度予算
	金額	10 千円	10 千円	10 千円

事業の実績 ・成果等 （数値）	・ブックスタート事業 12回（親子38組、77名） ・ブックスタートプラス 4回（親子36組、72名） ・ヨチヨチおはなし会 8回（親子23組、延べ27名）〔再掲〕 ・青森県教育委員会発行「絵本でゆたかな親子の時間」冊子の配布 46部			
-----------------------	--	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価		B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題		【成果・考察】 ・ブックスタート事業による絵本の贈呈が、家庭における読書活動の推進に役立っている。 ・生活様式の変化など、3歳未満時向けおはなし会への参加人数が少数となっている。 【課題】 ・3歳未満児向けおはなし会へのニーズ、読み手の確保。	
事業の方向性		☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	四戸委員	前田委員	橋本委員	村木委員	R4参考
		B	B	C	B	B	B

評価委員意見（参考：令和4年度の評価意見）

・良い事業なので、ぜひ継続してほしい。 ・ブックスタート体験者のアンケートをとり、配布しているCDが活用されていないなら配布をやめて、絵本の贈呈内容を充実させてみてはどうか。 ・親が読書を通じて感動することによって心が豊かになると、自然に子どもとの「本」を中心とした家読が生まれると思う。 ・本の素晴らしさを体験できる場となるように工夫してPRしてほしい。 ・子どもの減少とともに参加者も減少しているとのことであるが、行っている事業の内容を検討し、継続していただきたい。

評価委員意見（令和5年度）

・この取組は小学校でも実施している。図書館と担当教員がもっとタイアップできるようにしてはどうか。 ・ブックスタート事業はすばらしい事業で目的は十分に果たしていると思う。課題もあるようだが、解決に取り組みながら継続をお願いしたい。 ・ブックスタート以外の親子ふれあい読書「家読」の大切さをもっとPRしてほしい。 ・文字や本にどんどん接する時間をとれるように、是非宣伝してこどもたちの想像力を育ててほしい。 ・これからも継続して活動してほしい。 ・小・中学校への支援が必要となってくると思われる。

事務事業評価シート

施 策 名	学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上	担当課名	図書館
事務事業名	学校等と連携協力した読書活動の推進	担当者名	吉田 真希子

事業の目的 ・内容	図書館サークルをはじめ町の各種団体、学校、地域と連携し、読書活動の推進を図る。			
事業の対象	町民			
事業費	年度	令和 4 年度決算	令和 5 年度決算	令和 6 年度予算
	金額	10 千円	10 千円	10 千円

事業の実績 ・成果等 (数値)	【学校・幼稚園・保育園・児童館・放課後児童クラブ】 ・出前おはなし会（園・児童館） 2か所（62名）※ 再掲 ・インターンシップ・職場体験受入 2校（2日間・各校2名） ・図書館見学・生活科探検の受入等 4回（49名） ・図書セット貸出（園、児童館、放課後児童クラブ） 11か所（540冊） ・昔語りと「のへじふるさとカルタ」の贈呈（小学1・2年生） 4回（118部） 【その他】 ・団体貸出 7団体（125冊） ・読書団体への支援、町内の団体が主催する読書感想文コンクールへの協力			
-----------------------	---	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	【成果・考察】 ・読書活動の推進にあたっては、読書団体や関係機関などと連携、協力し引き続き取り組んでいく。児童館へのおはなしの出前や団体貸出等の支援や協働。 【課題】 ・学校図書館が必要としている支援内容などを学校司書や司書教諭、学校や所管課と協議し、提供できる支援内容を明確にする。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	四戸委員	前田委員	橋本委員	村木委員	R4参考
		B	B	C	B	B	B

評価委員意見(参考:令和4年度の評価意見)

・読書文化を推奨するための取組は良いが、関係団体と協力があまりできていないように思う。 ・学校図書館への支援も検討してほしい。 ・とにかく学校へ来て、親や子どもに本との関わりが持てるような企画を一回でも行ってほしい。 ・アイデアを一つでも多く出してほしい。

評価委員意見(令和5年度)

・各園・小学校にそれぞれの団体を紹介するような広報誌やパンフレットのようなものを配布してはどうか。 ・この取組は小学校でも実施している。図書館と担当教員がもっとタイアップできるようにしてはどうか。 ・学校と連携し、学校図書館への図書セット貸し出し等の支援も必要だと思う。 ・学校と連携協力をしっかり進めてほしい。 ・学校登録して、大きな本等を借りられるようにしてほしい。 ・活動が見えない。 ・図書館事業全般に共通しているのが、PR不足だと思う。頑張してほしい。 ・小・中学校への支援が必要となってくると思われる。
--

事務事業評価シート

施 策 名	社会教育推進のための基盤整備	担当課名	中央公民館
事務事業名	中央公民館施設の整備	担当者名	野坂 洸太

事業の目的 ・内容	・中央公民館環境整備			
事業の対象	施設及び設備			
事業費	年度	令和 4 年度決算	令和 5 年度決算	令和 6 年度予算
	金額	4,416 千円	6,072 千円	1,050 千円

事業の実績 ・成果等 (数値)	○主なもの ホール証明LED化工事 5,610,000円 駐車場区画線設置工事 462,000円 その他 要望のあった実習室食器棚へのガラスシートの貼り付けを行った。 【備考】 R6予算については、主だった工事請負費がないため、修繕費の額を計上。			
-----------------------	---	--	--	--

事業 の 評 価 （ 自 己 評 価 ）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	【成果】 必要な補修工事等の環境整備ができた。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	四戸委員	前田委員	橋本委員	村木委員	R4参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見(参考:令和4年度の評価意見)

・社会教育事業に何かと必要な施設なので、今後も計画的に使用者や利用者に負担にならないよう補修や改修を望む。 ・何年も同じことを言っているのですが、地震が起きても皿が飛んでこないように、ガラスシートを貼ってほしい。 ・施設内は古いが掃除は行き届いていて、大分綺麗になっていると感じる。綺麗に整備されていると使う側も綺麗にしようという意欲が湧くのでとても良いことだと思う。

評価委員意見(令和5年度)

・これからも安全で快適に利用できるようにお願いしたい。 ・継続を希望する。 ・施設内はさらに掃除が行き届いて古いけれども綺麗な状態を保っていると思う。必要な所に必要な整備をお願いします。 ・エアコンの導入で夏期の利用も快適になった。今後も利用者の利便性向上に努めてもらいたい。
--

事務事業評価シート

施 策 名	社会教育推進のための基盤整備	担当課名	図書館
事務事業名	図書館施設の整備	担当者名	吉田 真希子

事業の目的 ・内容	・施設の修繕や環境整備等を行い、利用に供する。			
事業の対象	施設及び設備			
事業費	年度	令和 4 年度決算	令和 5 年度決算	令和 6 年度予算
	金額	4,906 千円	2,732 千円	4,055 千円

事業の実績 ・成果等 (数値)	○主なもの			
	・玄関ホールシャンデリア電球LED交換 ・玄関ホール排煙窓開閉装置修繕 ・ケーブル回線ルート変更修繕 ・支障電気通信設備移転工事 ・ワイヤレスマイク更新工事 ・空気清浄機専用フィルター購入 ・建築物定期調査			
	・エアコン空調機器保守点検 ・外壁フード（防虫網）修繕 ・消火器更新 ・女子トイレ洋式便蓋修繕 ・スロープタイル修繕工事 ・利用案内版制作業務 ・掃除機購入			
	総額 ￥2,731,710円			

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない	
自己評価	B	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	【成果・考察】 ・修繕工事等の実施により、利用者の安全性や衛生面の向上に務めることができた。 【課題】 ・修繕が必要な場所や設備等がまだ多数ある。引き続き予算の確保が必要。		
事業の方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	四戸委員	前田委員	橋本委員	村木委員	R4参考
		B	B	B	B	A	B

評価委員意見(参考:令和4年度の評価意見)

・システム更新の成果をもっと活かした運営をお願いしたい。 ・社会教育事業に何かと必要な施設なので、今後も計画的に使用者や利用者に負担にならないよう補修や改修を望む。 ・予算がない中でいろいろ工夫して整備していると思う。

評価委員意見(令和5年度)

・ICTを導入し、図書館と役場、各学校、公共施設をつないで、どこでも検索できるように検討してほしい。 ・これからも安全で快適に利用できるようにお願いしたい。 ・少しずつ整備ができていますので、今後も継続し、利用しやすい場になればよいと思う。 ・利用者の安全性が確保されているとのことなので、これからも常に利用者のことを考え、必要な整備を継続してほしい。

事務事業評価シート

施 策 名	文化財の保護・保存	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	県史跡「藩境塚」「野辺地戦争戦死者の墓所」ほか町内史跡管理	担当者名	山崎 杏由

事業の目的・内容	・県史跡「藩境塚」「野辺地戦争戦死者の墓所」「一里塚」の維持管理。 ・町指定・未指定史跡の維持管理。			
事業の対象	一般			
事業費	年度	令和 4 年度決算	令和 5 年度決算	令和 6 年度予算
	金額	555 千円	521 千円	2,820 千円

事業の実績・成果等 (数値)	支出	藩境塚維持管理費	496,314円
		戦死者の墓所事業費	25,000円
■藩境塚 開放期間：4月10日～11月30日（公衆トイレ清掃/週5日） ■野辺地戦争戦死者の墓所 開放期間：通年（花壇整備/馬門長生会） ■一里塚 開放期間：特になし（2か月に1回草刈りを実施） ■町指定・未指定史跡：修繕等なし			

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	成果： 史跡の維持管理は図れており、利用者から大きな不満の声等はない。 課題： ・一里塚公有化と活用の検討。案内板等の老朽化及び記載内容の更新。 ・各史跡に設置している案内板等の修繕を順次行う必要がある。 ・藩境塚公衆トイレの老朽化が見られ、修繕が必要。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	四戸委員	前田委員	橋本委員	村木委員	R4参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見(参考:令和4年度の評価意見)

・もっと町をあげてPRしている雰囲気してほしいと感じる。 ・藩境塚のトイレ利用が意外と多いと思うので、清掃活動に感謝します。ただ老朽化が激しいということで、一刻も早く修繕されることを願う。 ・藩境塚のトイレの開放期間中にトイレの中にパンフレット等を置いて、町の宣伝をいろいろしても良いと思う。 ・課題をしっかりと理解しているので、その改善に努めてほしい。
--

評価委員意見(令和5年度)

・職員不足で苦勞されているように思う。正規職員をあと1人確保してはどうか。 ・適切に維持管理されていると思う。予算の都合もあると思うが、計画的に修繕をお願いしたい。 ・継続を希望する。 ・今後も利便性維持に努めてほしい。

事務事業評価シート

施 策 名	文化財の保護・保存	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	旧野村家住宅離れ（行在所）の公開と維持管理	担当者名	山崎 杏由

事業の目的・内容	国登録有形文化財〔旧野村家住宅離れ〕の公開と維持管理。			
事業の対象	一般			
事業費	年度	令和 4 年度決算	令和 5 年度決算	令和 6 年度予算
	金額	540 千円	419 千円	490 千円

事業の実績・成果等 (数値)	公開期間：4月1日～11月30日		
	支出	行在所維持管理費	419,734円
	施設の公開、通常の維持管理、池掃除のほか、庭園内の樹木と桜の剪定を実施。文化財防火デーには消防訓練を実施した。		
	見学者（記帳者）数：669人（うち町外259人）		
	※R4記帳者：561人（うち町外251名）		

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	成果：町内外見学者や団体見学が増え、郷土史への関心を高める施設となっている。 課題： ・ 通常は無人の施設なので防災・防犯上の課題がある。 ・ 団体見学者等に対し、行在所をガイドできる人材の育成が必要。 ・ 計画的な改修を行い保存を図るとともに、蔵の活用について検討が必要。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	四戸委員	前田委員	橋本委員	村木委員	R4参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：令和4年度の評価意見）

・もっと町をあげてPRしている雰囲気してほしいと感じる。 ・無人公開が基本なので、汚損させられないか心配。注意書き看板の設置や定期的に人がパトロールすることが必要と思う。 ・今後は蔵の活用等についても話し合っていく必要があると思う。 ・全国的にも野辺地の地名が知られるようになる工夫がもっとあれば良いと思う。 ・行在所を見に来る方のためにも、誰か説明してくれる方がいれば歴史を深く知ることができて良いのではないと思う。また、来た人は良ければ周りの人にアナウンスしてくれるので、更に人が来ることに繋がる。

評価委員意見（令和5年度）

・11/3の夜間公開はすばらしかった。もっと発信してもよいと思う。 ・適切に維持管理されていると思う。今後の蔵の活用に期待する。 ・ボランティアガイドがいてくれたら、見学者は野辺地物語を感じられると思うので、ぜひ育成の場をつくってほしい。 ・見学者が増えているのはPR活動が普及しているからだと思う。さらに野辺地のすばらしい財産を広めてほしい。 ・庁舎新築に伴って環境が変化すると思われるので、新たなPRも必要ではないか。

事務事業評価シート

施 策 名	文化財の保護・保存	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	文化財調査事業	担当者名	山崎 杏由

事業の目的・内容	町内の指定・未指定文化財の保護と活用を図るため文化財調査を行う。 また、調査文化財は保存と継承を図るため、文化財指定（町・県等）を進める。		
事業の対象	一般		
事業費	年度	令和 4 年度決算	令和 5 年度決算
	金額	858 千円	301 千円
			令和 6 年度予算
			875 千円

事業の実績・成果等（数値）	①祇園囃子・神楽の保存・継承に係る調査（複数年度実施予定） 弘前大学非常勤講師・下田雄次氏へ依頼し、無形民俗文化財の調査を実施。 2 団体の祇園囃子・神楽の演奏技術の継承について調査。（調査回数：5回） ②資料館収蔵資料整備業務 弘前大学人文社会科学部博物館実習室と連携し、R4までに行った民俗調査を基に野辺地の昔のくらし等がわかる資料を詰め込んだ学校への民俗教育パックを作成するための調査と準備を行った。
---------------	---

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない	
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	成果： 弘前大学との調査により、民俗資料展示のリニューアルができた。 課題： ・リニューアル後の展示に関する教育パックの作成を弘大と連携し実施し、より広く資料の活用と資料館へ足を運ぶきっかけづくりをする必要がある。 ・弘前大学との関係性継続を図る。 ・祇園囃子・神楽の調査は単年度で成果を出せないため、継続して実施する必要がある。		
事業の方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	四戸委員	前田委員	橋本委員	村木委員	R4参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見(参考:令和4年度の評価意見)

・イベント等を開催し、弘前大学の学生にも参加してもらい広く町民に紹介したい。 ・弘前大学とのタイアップは文化財調査や保護に寄与しているので、今後も良い関係を築いてほしい。リニューアル後の施設を学校の活動で役立ててほしい。 ・以前より整備されて大変見やすくなった展示室に、訪れる人が増加して良かったと思う。
--

評価委員意見(令和5年度)

・職員不足で苦勞されているように思う。正規職員をあと1人確保してはどうか。 ・長期にわたる調査もあり大変だと思うが、課題解決に向けて計画的に進めてほしい。 ・毎年少しずつではあるが見やすく工夫されていて、よく頑張っていると思う。
--

事務事業評価シート

施 策 名	文化財の保護・保存	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	埋蔵文化財発掘調査事業	担当者名	山崎 杏由

事業の目的・内容	文化財保護を図るため、開発行為が予定されている埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を行う。			
事業の対象	一般			
事業費	年度	令和 4 年度決算	令和 5 年度決算	令和 6 年度予算
	金額	368 千円	372 千円	365 千円

事業の実績・成果等 (数値)	・槻ノ木（５）遺跡調査 東北電力の送電線鉄塔建替え工事に伴う本発掘調査を実施。 発掘調査報告書は、令和６年度に発行予定。			
-------------------	--	--	--	--

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	成果： 県文化財保護課の協力・指導を受けながら発掘調査を行うことができた。 課題： ・発掘調査は文化財パトロール員を委嘱している元埋蔵文化財行政従事者と連携し実施しているが、更に人材の確保が急務である。 ・埋蔵文化財包蔵地内での無届開発も見受けられることから、届出に関する周知が必要と思われる。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	四戸委員	前田委員	橋本委員	村木委員	R4参考
		B	C	B	B	C	C

評価委員意見(参考:令和4年度の評価意見)

・人手を増やすことも検討してほしい。 ・縄文くららと繋がる成果も期待する。 ・今後の経過を見守りたいと思う。
--

評価委員意見(令和5年度)

・職員不足で苦勞されているように思う。正規職員をあと１人確保してはどうか。 ・１人でいろいろなことをしていただき感謝している。記録保存がきちんと進められるように望む。 ・なかなか結果が出るには時間がかかると思うが、町自体がくらの発展に力を入れているので、地道でもよいので続けてほしい。
--

事務事業評価シート

施 策 名	文化財の整備と活用	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	文化財活用事業の実施	担当者名	山崎 杏由

事業の目的・内容	文化財の周知・活用と活用人材を育成するため、下記事業を実施した。 ①縄文PR・活用事業の開催 ②日本遺産3港連携事業(日本遺産認知度向上・情報発信・人材育成事業)の実施 ③旧野村家住宅離れ(行在所)夜間特別公開の実施 ④北前文化継承事業(日本遺産のPRと活用人材育成)の実施			
事業の対象	一般			
事業費	年度	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度予算
	金額	2,211千円	1,459千円	1,442千円

事業の実績・成果等(数値)	1. 縄文PR・活用事業 ※国指定重要文化財・土偶をPRする事業 野中美術部・デザイナーが縄文くらはPRページ等を作成した。また、カリッ幼稚園参観日にてふるさとワークショップを開催した。(参加者33名とその保護者) 2. 日本遺産3港連携事業 鯉ヶ沢・深浦町教委と、スタンラリー・ハッセル展・キッズツアー・まちあるき・フォーラムを実施。 また、地域の歴史を知る校外学習を町内2小学校・野高で実施(参加児童/123名) 3. 旧野村家住宅離れ夜間特別開放 来場者数/210名(R4/92名)			
---------------	---	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない	
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	成果： 新たな自治体や学校等と連携し、昨年度よりも文化財の周知・活用を図ることが出来た。 課題： ・継続して事業を実施し、町の歴史に関する認知度を向上させていきたい。 ・校外学習やまちあるき等で学んだ知識を活用できる場づくりを検討。 ・事業効果や成果が短期的には見えないため、評価が難しい。 ・若い世代に向けた情報発信方法の検討と取組を検討したい。		
事業の方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	木村委員	四戸委員	前田委員	橋本委員	村木委員	R4参考
		A	A	B	B	A	B

評価委員意見(参考:令和4年度の評価意見)

・学校としては大変有り難いので継続をお願いしたい。 ・事業の目的に即した活動ができている。準備や他町との連携は大変だと思うが、継続してほしい。 ・ふるさとを知ることによって地域を大切に思う心が育まれていくと思うので、今後も継続してほしい。 ・緩やかではあるが、くらは・北前文化継承事業について周知されてきている。これから先も頑張っていただいて、町民が誰でも知っているくらは・行在所・北前文化を目指していただきたい。

評価委員意見(令和5年度)

・新聞やニュースなどにも取り上げられ、良い活動ができていることが周知されている。もっと発信してもよいと思う。 ・他町との連携や幅広い世代に対して事業を行っており、良い事業だと思う。 ・野辺地町の歴史を文化財を通して学ぶことができるので、大切に守っていかれたらと思う。 ・今後も継続を希望する。 ・他市町村や町の関係機関と積極的に事業を行い、文化財の周知に大変貢献している。 ・町の歴史の大切なPR事業であり、継続すべきである。

事務事業評価シート

施 策 名	郷土の歴史・文化・芸術の保存及び継承	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	民俗芸能の保存と継承	担当者名	山崎 杏由

事業の目的・内容	・「祇園囃子」「ささ踊り」「権現舞」「沖揚げ音頭」などの民俗芸能の後継者育成支援や発表機会の充実に努める。 ・映像や音声による民俗芸能の保存に努める。			
事業の対象	一般（民俗芸能保存団体）			
事業費	年度	令和 4 年度決算	令和 5 年度決算	令和 6 年度予算
	金額	0 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）	民俗芸能保存団体の現状を引き続き確認した。 団体会員の高齢化等により十分な活動ができていないことが確認でき、活動に関する調査は行えなかった。 日本遺産3港連携を行っている鯨ヶ沢町と祭りによる文化交流を行った。 ◆鯨ヶ沢町の「イカのカーテンまつり」民俗芸能発表会参加 開催日：9月2日（土） 参加人数 25名（駅前組祭典部） 内容：野辺地の祇園囃子と神楽の披露			
---------------	---	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☒ 達成できてない
自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い	
評価説明及び考察、課題	成果： 調査文化財の概要を把握することができた。 課題： ・各団体後継者探しに苦労しているため、人財の発掘が課題。 ・現時点での芸能を記録・保存しておく必要性がある。 ・鯉ヶ沢町との祭り文化交流を進め、お互いに民俗芸能継承機運を高めたい。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	C	木村委員	四戸委員	前田委員	橋本委員	村木委員	R4参考
		B	C	C	C	C	C

評価委員意見(参考:令和4年度の評価意見)

・予算が必要である。改めてまずは金銭的な支援から始めてはどうか。 ・民俗芸能者の体が動いたり病に倒れないうちに、映像や音声による記録保存が急務だと思う。また学校での教育資料となるように編集してほしい。 ・野辺地町に現在伝えられ残っている民俗芸能の保存と継承は、各団体の高齢化もあり、またコロナ禍もあったりとなかなか残していくのにはそれぞれのPRも大切だが、知恵をしぼってなんとか後世に残してほしい。 ・難しい事業であると思うが誰かが残さなければならない大切な文化なので、大変だとは思いますが継続して行っていたきたい。

評価委員意見(令和5年度)

・職員不足で苦勞されているように思う。正規職員をあと1人確保してはどうか。 ・他町との文化交流は良い事業だと思う。 ・民俗芸能の保存・継承は、町観光協会との連携も検討してはどうか。 ・なかなか保存に向けての活動は大変だと思うが、なんとか工夫・アイデアを出し合い、町の宝をなくさないようにする必要があると思う。 ・総合の授業などを活用して、こどもたちに知って学んでもらうこともよいと思う。 ・人材確保、活動継続のためにも予算が必要。学校との連携の検討をしてみてもいい。
--

事務事業評価シート

施 策 名	資料館施設の整備充実	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	特別展・各種講習会等の普及事業の開催	担当者名	山崎 杏由

事業の目的・内容	郷土の歴史や文化財について理解を深める講座を開催し、郷土を愛する人財の育成を図る。 ふるさと学習やボランティアガイドの実施、企画展開催、関係団体と連携し、野辺地町の歴史に関する普及事業を実施する。 また、資料貸出や資料調査、歴史に関する出前講座等の対応をする。			
事業の対象	一般			
事業費	年度	令和 4 年度決算	令和 5 年度決算	令和 6 年度予算
	金額	23 千円	868 千円	62 千円

事業の実績・成果等 (数値)	1. 日本遺産関連パネル展（青森市2回）の開催 2. 各種講座の開催・ボランティアガイド活動・出前講座等 ①歴史講座1回（参加者数40名） ②古文書講座(13回/述べ参加者数195名) ③ボランティアガイド 4件 ④出前講座 2件 3. ふるさと検定「のへじ検定」の開催 申込者：13名（初級/2名、中級/3名、上級/8名） 合格者：初級0名、中級1名、上級8名 小学生:76名(合格22名), 中学生:81名(合格51名), 高校:66名(合格49名)			
-------------------	--	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	成果： 学校と継続した連携ができており、若年層への教育を更に図ることができた。 課題： ・事業の効果測定が難しいことから、成果が見えにくい。 ・人材育成のため小中高と連携を継続し、郷土を知る学習の定着を目指す。 ・のへじ検定の参加者が減少しているため、新しい手法を検討したい。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	四戸委員	前田委員	橋本委員	村木委員	R4参考
		A	B	B	B	B	B

評価委員意見(参考:令和4年度の評価意見)

・ふるさと検定は継続してほしい。 ・ふるさと検定は良いと思う。将来歴史学者を夢見る子どもが育つと嬉しい。 ・野辺地町マイスターが一人でも多くいてほしい。 ・定期的に勉強会を開いてほしい。
--

評価委員意見(令和5年度)

・学校教育活動への貢献度は非常に大きく、感謝している。 ・目的に沿った内容だと思う。のへじ検定の受験者が増える工夫を期待する。 ・継続を希望する。

事務事業評価シート

施 策 名	資料館施設の整備充実	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	資料のデータベース作成・整備事業	担当者名	山崎 杏由

事業の目的・内容	文化財保存を図るため、歴史民俗資料館収蔵資料の整理と管理を行う。 また、収蔵資料の活用を図るため、整備・調査を行う。			
事業の対象	一般			
事業費	年度	令和 4 年度決算	令和 5 年度決算	令和 6 年度予算
	金額	0 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等 (数値)	・収蔵資料の整理（リスト化・写真撮影）、データベース作成。			
-------------------	-------------------------------	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い	
評価説明及び考察、課題	成果：少しずつ資料の整理と管理が進んできている。 課題： ・遺跡発掘調査出土資料の管理や大型民具等の収蔵スペースの確保。 ・データの保存場所や閲覧できる媒体（タブレット等）の検討が課題。 ・今後も寄贈資料は増えると思われるため、資料受入基準を検討。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	C	木村委員	四戸委員	前田委員	橋本委員	村木委員	R4参考
		C	C	C	C	B	C

評価委員意見(参考:令和4年度の評価意見)

・エアコンの導入を検討すべきだと思う。 ・I C T環境の整備をしてほしい。 ・資料のデータベース作成といっても、将来どのような形で使用されることを望むのかビジョンを検討して活動してほしい。 ・担当者も忙しいので、どなたかの協力を得ながら資料を作成してほしい。 ・町の財産でもあるので、これからも継続してほしい。 ・課題が多く改善していくにも難しい部分も多いと思うが、できることからゆっくりで良いので継続してほしい。

評価委員意見(令和5年度)

・職員不足で苦勞されているように思う。正規職員をあと1人確保してはどうか。 ・文化財の有効活用にもつながると思うので、計画的に進めてほしい。 ・1人で実施するのは大変なので、ボランティア等の協力を得ながら資料を作成できないか。 ・町民に呼びかけて、得意な方に協力してもらえたらと思う。 ・マンパワー不足が大きく影響していると思う。その改善なくして事業の進展はないのではないか。
--

事務事業評価シート

施 策 名	資料館施設の整備充実	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	館内環境整備事業	担当者名	山崎 杏由

事業の目的・内容	施設老朽化による修繕や、利用者のニーズに答えるための館内環境整備を行う。			
事業の対象	一般			
事業費	年度	令和 4 年度決算	令和 5 年度決算	令和 6 年度予算
	金額	124 千円	140 千円	0 千円

事業の実績・成果等 (数値)	①資料館内設置消火器購入	90,110円
	②資料館・史跡環境整備用刈払機購入	50,600円
	◆歴史民俗資料館入館者数：1,142名（R4：1,047名）	

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない	
自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い	
評価説明及び 考察、課題	成果：施設の適切な維持管理を行った。 課題：施設老朽化により、修繕箇所が年々増えている。 ・町の計画等を見ながら施設修繕を行い、徐々に環境整備を図りたい。 ・資料の保存状況を鑑みながら、今後エアコンの導入を検討する。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	C	木村委員	四戸委員	前田委員	橋本委員	村木委員	R4参考
		C	B	C	C	C	C

評価委員意見(参考:令和4年度の評価意見)

・エアコンの導入を検討すべきだと思う。 ・社会教育事業に何かと必要な施設なので、今後も計画的に使用者や利用者に負担にならないよう補修や改修を望む。 ・限られた予算の中で計画を立てながら、今後も継続してほしい。
--

評価委員意見(令和5年度)

・これからも安全快適に利用できるようにお願いしたい。 ・町の宝物が山ほどあるので、少しずつでも整備してほしい。 ・お金がかかる事業ではあるが、入口がもう少し明るければイメージが少しでも良くなるのではないかなと思う。 ・エアコンの導入は早期に実施すべきである。
--